

## 「神の喜ばれる教会」コロサイ3：16，17 堀田修一 19・5・19

### I みことばを分かち合う教会を神は喜ばれる

「キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい」コロサイ3：16

「キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい」とは、私達の心の奥深くに主のみことばが、定着する事が、何よりも大切であるという事です。

みことばこそ、私たちの「足のともしび」「道の光」にほかならないからです。詩篇119：105。

「みことばを住ませなさい」というこの箇所大切な点は、個人的というものよりも、キリストの教会という共同体に向けて語られています。つまり、信徒の群れの中に、キリストのみことばを住ませなさいと言われているのです。このことから、初代教会においては、個人個人の生活はもちろんの事、それに加え、教会の交わりのまっただ中でも、みことばを互いに分かち合う生活が実践されていた事が知らされます。みことばを分かち合う事は、教会形成の一つの方法論ではなく、みことばそのものが、勧めていることです！

みことばの恵みを分かち合う事は、「宣教と成長」につながります。特に、教会全体に祈られて、牧師が祈りつつ準備した教会の業としての礼拝説教のみことばの恵みを色々な集まりで分かち合えることは幸いな恵みです。人それぞれが、説教のみことばから教えられるところが違うので、互いに補い合い、それを分かち合う時、ますます恵みが増し、互いに教えられるのです。みことばの恵みを分かち合う時、

①自分自身も、再び恵みを受けます。みことばの理解が深まります。

②他の人々も、その恵みを共有（交わり、コイノニアの原語の意＝共有する、分かち合う）し、恵みが増すのです。

③その分かち合いに、求道者がおられたら、その分かち合いは、伝道となります。

④礼拝説教、みことばの恵みを、誰にも分かち合わない、恵みは増す事がなく、忘れて行きます。※私自身も。聖会の説教を聞いても、分かち合いがないと、忘れやすいのです。

⑤しかし、礼拝説教、みことばの恵みを他の人に分かち合う時、その恵みは、増して行きます。それが伝道につながります。

⑥みことばの分かち合いには、一つの大切なルールがあります。それは、主語が、「私達は」ではなく、「私は」です。つまり、説教を聞いて、分かち合いのグループで、ある人が、上から目線で「私達は、こうしなければならぬ」と言われると、さばかれているようで、そこにいる人々は、心を閉ざします。しかし、皆の分かち合いの主語が「私」つまり、へりくだり「私は、本日の説教から、このように教えられました」と語られると、そこにいる人々の心は開かれ、互いに教えられるのです。

⑦人は聞くだけでは、忘れやすいものです。皆、そうです。ですから、私は、説教をプリントに記し、皆さんにお渡しするようにしています。

i 理解に、役立てて頂きたい為。

ii 後で、もう一度、読まれて、真の教師である御聖霊が新しく、教えられ、また、みことばの恵みを、思い起こして頂く為です。プリントをファイルされ、読み返しておられる方が、おられる事を嬉しく思います。「幸いなことよ 主の教えを喜びとし 昼も夜も そのおしえをくちすさむ（思い巡らす）人」詩篇1：1，2。みことばを思い巡らす！

**II 「これしかない」という考え方（「心（思い、考え方）を新たにする事で、自分を変えていただきなさい」（ローマ12：2）ではなく、「これも、あれも、神は、与えられている」と思い起こし、感謝し、それを、主のもとに持って行く教会を神は喜ばれる。**

ある日、少年は、自分が持っている食物を、独り占めにせず、弟子達の所に持って来ました。私達も、自分自身を、自分に与えられているものを主のもとに持って行きましょう。主は、皆さんを、そして、奉げ物を豊かに用いて下さいます。弟子達は、主に言った。「ここには五つのパンと二匹の魚しかありません」マタイ14：17。すると、イエス様は、「これだけしかないのか」とは言われない。イエス様は、自分が持っているものをささげた少年に感謝された事でしょう。そして主は言われた。「それを、ここに持って来なさい」と言われた。「それからイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ（「イエスはパンを取り、感謝の祈りをささげてから…分け与えられた」ヨハネ6：11。神を讃える事、感謝の祈りは、神の祝福を増す力がある！イエス様は、神を讃え、感謝の祈りをささげた後、「パンを裂いて弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った。」マタイ14：19。主は、全能のお方なので、本来は、一瞬にして、世界宣教や教会形成がお出来になる。しかし、そうされない。欠けのある弟子達、私達と共に御業を進めたいと思っておられる。光栄な事である。ご自分で、すべてをなさらず、弟子達に、そして私達に、相応しい奉仕を分け与えて下さる。主の御業に参加させて下さる。無理した奉仕は、良くない。相応しい奉仕は、私達を成長させる。主は、パンを裂いて（聖餐式の恵みと重なる）、弟子達に与え、弟子達は、群衆に配った。「人々はみな、食べて満腹した」マタイ14：20。少年の五つのパンと二匹の魚は、主の所に持って来られなければ、そのままだった。しかし、主に奉げられ、主が感謝され、弟子達に渡され、弟子達が、群衆に配り出すと主の御手の中で増えて行った。今も同じである。主のみことばのパンの恵みも、分かち合われる時、恵みが増す。みことばの恵みが、家族、知人、友人、全世界に配られる時、みことばの恵みは、増し続け、人々は救われる。みことばの恵みを分かち合い、配る人自身も恵まれる。御業への参加の恵み！

**III 先行する神の恵みを数え、感謝しつつ、神が与えられたものの十分の一を、礼拝献金を、感謝の奉げ物を喜んで奉げたい**

＝先行する神の恵みへの応答＝私たちの奉げ物が先にあるのではなく、主の十字架の恵み、父なる神が、まず、私達を愛し、御子を与えられた、御聖霊の交わり（内住、励まし慰め）、日々の命、衣食住他、主の多くの恵みを、当たり前と思わず、心から感謝しつつ奉げたい。奉げた後の祈り「すべてはあなたから出たものであり、私たちは御手から出たものを献げたにすぎません」

I 歴代29：14